

CEFRとケンブリッジ英語検定

Common European Framework of Reference for Languages* (CEFR:ヨーロッパ言語共通参照枠)の開発にケンブリッジ大学英語検定機構が深く関与した歴史的経緯から、ケンブリッジ英語検定はCEFRと整合性が高く、学習者が目標とするCEFRのレベルに到達しているかを判定する際の基準となるテストとして世界中で活用されています。

Cambridge Englishスケールで試験間の比較が可能に

2015年1月より導入されたスケールにより、4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)及び文法・語彙知識**での各成績がスコアで表示されるため、受検者はより詳細な情報を得ることができます。この共通基準により、ケンブリッジ英語検定の各試験、IELTS(アイエルツ)、CEFRとの比較が分かり易く示されるようになりました。

例えば、スコアが180-199ならばCEFRのC1レベルに相当します。つまりC1レベルで最も低い受検者のスコアは180になります。B2 First/First for Schools、C1 Advanced、C2 Proficiencyの異なるレベルの試験で同じスコアの場合、学習到達度は同等とみなされますが、上級レベルの試験はより高度な認知プロセスと機能を網羅する出題となっている点にご留意下さい。なお、スコアが180の場合、B2 First/First for SchoolsはグレードA、C1 AdvancedはグレードCで合格ですが、C2 Proficiencyは不合格判定となりCEFRレベルのC1が認定証に記載されます。

* : 2001年に Council of Europe (欧州評議会) が発表した言語運用レベルの基準
** : B2 First/First for Schools以上の試験のみ文法・語彙知識に関する出題あり

ケンブリッジ英語検定 ペア型スピーキングテストの特長

ケンブリッジ英語検定は1913年に始まり、100年以上の歴史があります。スピーキングテストも開始当時は1時間かけてテストをしていましたが、その時代でベストと思われる形式へと改良を重ね進化を遂げてきました。現在では、A2 Key/Key for SchoolsからC2 Proficiencyまでスピーキングテストは対面式で、試験官2名と受検者2名で原則行う形式で実施されています。



試験官2名のうち1名は質問役と全体評価を担当、もう1名は評価スケールごとに評価を行い、会話に加わることはありません。試験官とのやり取りだけではなく、受検者同士のやり取りを評価の対象とすることで、より実生活に近い環境でスピーキング力を測る工夫が施されています。以下、B1 Preliminary for Schoolsを例にご紹介します。

- パート1. (導入タスク) : 受検者は、一般的なやり取りや社交的な言語を使って、試験官の質問に答える。
例) 名前や、「どこに住んでいますか」「あなたの先生についてお話ししてください」等、受検者は個別に質問を受ける。
- パート2. (個別タスク) : 異なる写真が渡され、それを見て1分間相手に説明。
例) 「(何かの) 方法を学んでいる人」を表す写真について説明する。(=話すこと[発表])
- パート3. (協力タスク) : 与えられたイラストを見ながら、質問に対する自分の考えを述べ、もう一人の受検者と「やり取り」をする。
例) 小さな村の生徒たちが首都である大きな都市に旅行します。(首都で行うアクティビティについて) どのアクティビティができそうか、中でも一番面白いのは何かについて二人で話し合う。(=話すこと[やり取り])
- パート4. (ディスカッション) : 好きなこと／嫌いな事、好み、習慣等について話し合う、賛成／反対意見を述べる。
例) 旅行に行くとしたら友達と行きたいですか？それとも家族と行きたいですか？その理由は？

Cambridge Assessment Englishの動画サイトCambridgeenglishtvでスピーキングテストの様子を視聴できます: www.youtube.com/user/cambridgeenglishtv

学習指導要領との関連性 4技能それぞれに高い親和性がみられますが、ここではスピーキングの例をご紹介します。

高等学校学習指導要領 第8節外国語	ケンブリッジ英語検定 B1 Preliminary/Preliminary for Schools (中高生対象)
〔言語の働きの例〕 a コミュニケーションを円滑にする: ・相づちを打つ・聞き直す・繰り返す ・言い換える・話題を発展させる・ 話題を変える、 など	質問役の試験官は全体評価のみ、もう一人の試験官は 1. Pronunciation (発音) 2. Grammar and Vocabulary (文法・語彙) 3. Interactive Communication (相互コミュニケーション) 4. Discourse Management (談話管理) の4つの評価スケールで、 試験官と受検者、受検者間でのやりとりを採点する。4.では、話す内容に論理的かつ首尾一貫性が見られるか(coherence and cohesion)、関連性(relevance)があるか、同じアイデアの繰り返し(repetition)ではなく、トピックを発展させる新しいアイデアの導入はあるか、などが評価項目になる。 ※ 3. Interactive Communication (相互コミュニケーション) で評価される項目 ① Development of the interaction (積極的な会話の展開) ② Initiating & Responding (会話のイニシアチブ、相手の発言への反応) ③ Prompting & Supporting (相手の発言を引き出すスキル) ④ Turn and Simple exchange (会話の基本: 発話・応答の役割)

認定証が発行されるスコア範囲

Cambridge Englishスケールで示されているスコア範囲には、認定証が発行されないスコアも含まれています。例えば、B2 First/B2 First for Schoolsの試験では、スコアが160-190の場合は合格のグレードとCEFRレベル (160-179はレベルB2、180-190はレベルC1) が記載されます。140-159の場合は不合格になりますが、CEFRレベルのレベルB1が記載されるので英語力の証明にお使いいただくことが可能です。スコアが122-139の場合は結果ステートメントにスコアは記載されますが、認定証の発行はありません。

全受検者に「結果ステートメント (Statement of Results)」が発行されます。さらに該当者には「認定証 (Certificate)」も発行されますが、どちらにも次の内容が記載されています。右は、C1 Advanced受検者の結果ステートメントの例です。

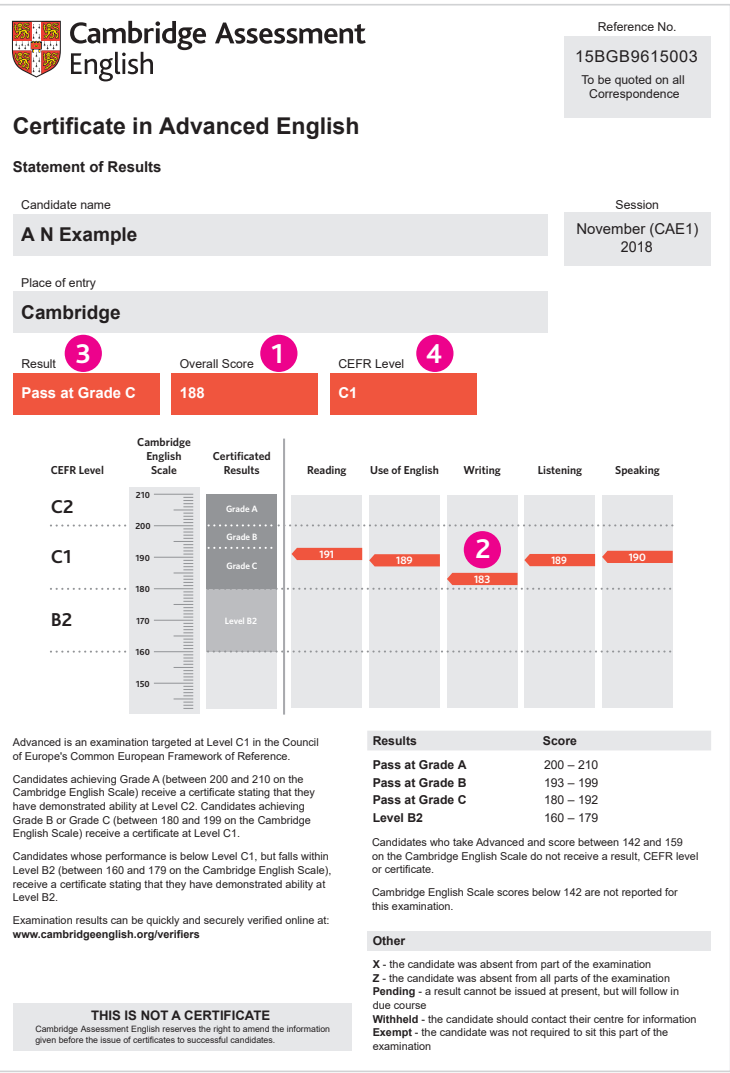
結果ステートメントに記載される情報:

- Cambridge Englishスケールでの総合評価スコア
- 技能別(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング) および文法・語彙問題 (Use of English) の Cambridge Englishスケール各スコア
- 合格のグレード
- CEFRレベル

さらにB2 First/First for Schools、C1 Advanced、C2 Proficiencyの認定証には、英国資格指標 (NQF:UK National Qualifications Framework) のレベルも記載されます。



2019年9月現在の認定証 (Certificate) のサンプル



Results	Score
Pass at Grade A	200 – 210
Pass at Grade B	193 – 199
Pass at Grade C	180 – 192
Level B2	160 – 179

Candidates who take Advanced and score between 142 and 159 on the Cambridge English Scale do not receive a result, CEFR level or certificate.

Cambridge English Scale scores below 142 are not reported for this examination.

Other

X - the candidate was absent from part of the examination
Z - the candidate was absent from all parts of the examination
Pending - a result cannot be issued at present, but will follow in due course
Withheld - the candidate should contact their centre for information
Exempt - the candidate was not required to sit this part of the examination

Cambridge Assessment English
ケンブリッジ大学英語検定機構
試験開発部門 日本統括オフィス
Email: InfoJapan@cambridgeenglishreps.org
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-21-1
ヒューリック神田橋ビル9階
ケンブリッジ大学出版株式会社
T: 03-3518-8276
F: 03-3518-8274
www.cambridgeenglish.org (English)
www.cambridgeenglish.org/jp (日本語)

- cambridgeenglish.org
- [/CambridgeEnglish](https://www.facebook.com/CambridgeEnglish)
- [/CambridgeEnglishTV](https://www.youtube.com/CambridgeEnglishTV)
- [/CambridgeEng](https://twitter.com/CambridgeEng)



ケンブリッジ大学英語検定機構 (Cambridge Assessment English) は、英国ケンブリッジ大学の一部門であり、非営利組織です。ケンブリッジ英語検定や英語教授知識認定テスト (TKT) など世界中の英語学習者や指導者にとって価値ある資格試験の開発、提供に努めています。試験の品質は、英語試験提供機関の中でも世界トップレベルの研究者チームによって支えられています。

受検者は世界130カ国でおよそ年間550万人に上り、大学・企業・省庁など世界約25,000機関により、英語力の証明としてケンブリッジ大学英語検定機構の試験は認定、活用されています。

リーフレットの情報は印刷時のものである旨予めご了承ください。

Cambridge Assessment English



ケンブリッジ英語検定とスケールスコアについて

Cambridge English Qualifications and the Cambridge English Scale

A2 Key
A2 Key for Schools
B1 Preliminary
B1 Preliminary for Schools

2020年1月改訂 対応版

